

美術科学習指導案

日 時 令和 3 年 5 月 2 8 日
場 所 第 1 美術室（3 年校舎 3 階）
学 級 2 年 6 組 4 0 人
授業者 教 諭 谷 口 博 文

1 題 材 デザイン

題 材 名 「アイコンで、かごんマップ」

2 題材について

アイコンとは近年の情報化社会の中でよく用いられる記号である。パソコンなどの情報端末機器内に小さな画像で示され、プログラムやファイルの内容などが図案化され、視覚的にわかりやすく表される。スマートフォンやタブレットのアプリケーションのアイコンとして、中学生が日常生活の中でもよく目にするデザインである。学習指導要領の第 2 学年 A 表現（1）イのデザインや工芸の内容の（イ）には、「伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。」とある。アイコンを作るには、伝えたい内容を象徴的に表すために、伝える内容や相手などから、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描き、分かりやすさと美しさとの調和を考え、表現の構想を練ることが重要である。見る人が受ける印象を考慮しながら形を単純化しつつ、色の効果を考えて表現していく力を必要とする。対象を表す文字やイラストの要素を組み合わせる美的に構成して表すアイコンは、形や色などの造形の要素で構成されており、その目的と機能や美しさの調和などについて豊かに発想し、創造的な表現の構成を練りながら生活や社会の中の美術と関わる資質・能力を身につける題材としてふさわしいと考え、本題材を設定した。

本学級の生徒は活発で、真剣な態度で制作や鑑賞の活動に取り組む生徒が多い。鑑賞の授業では対話的活動を通じて作品に対して自分の意見や思いを深め、意見交換をしながら互いの作品の質を高めようとするができる。デザインの学習にも過半数の生徒が高い関心をもっている。しかし、半数近くの生徒が主題に対して自分の思いを深めたり広げたりしたりすることが十分でないまま構想段階に進んでしまうことが多い。また、発想した形や色を総合的に美的に表現することが不十分である。これまでの学習で得た知識・技能を総合的に生かし、相互鑑賞や話し合い活動を通じて、自分の作品をよりよく構成していく力を高めさせたい。

本題材では、旅行者に向けて特に紹介したい鹿児島のスポットをアイコンとして制作し、デザインマップとして表現する。郷土のよさを探求しながら、日常生活のなかで用いられるアイコンとして表し、色・形を単純化させた地図として作品にする制作活動を通して、生活や社会の中の美術の役割や意義を捉えさせたい。

指導にあたっては、導入でさまざまなウェブページよりアイコンを鑑賞させ、色や形からアイコンに込められた意味を考える。鑑賞を基に、まずは単純化しながらアイコンの形を考え、その後、総合的に調和のとれた作品にするための配色をする。本時では、「インパクト」、「わかりやすさ」、「好感」の 3 つの視点で美しいデザインに練り直すための話し合い活動とアイデアスケッチの練り直しを行う。対話的活動を取り入れ、制作の視点を基に自分の作品を他者に紹介し、アドバイスや意見を交換する。伝えたい内容、他者が受ける印象などを考え、形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを考える力を養い、総合的に調和のとれた表現につなげていきたいと考える。

3 題材の目標

- (1) 色や形が感情にもたらす効果を理解し、自分の意図に合う表現を創意工夫し、見通しをもって創造的に表現することができる。【知識及び技能】
- (2) 対象の特徴を見つめ主題を生み、色や形などの効果を生かして表現の構想を練ることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 身近なアイコンや生徒相互の作品鑑賞をし、作者の意図や表現の工夫、調和のとれた美しさなどを自分の価値意識をもって味わうことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (4) アイコンに関心を持ち、主体的に制作活動や鑑賞活動を行うことができる。【学びに向かう力、人間性等】

4 題材の指導計画（全8時間）

●学習のねらい ・ 学習活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1 鑑賞と制作の計画（2時間） ① 身近なアイコンを鑑賞し、総合的に調和のとれたデザインについて知り、またアイデアマップを基に作品完成までの見通しをもつ。	○	◎	○	知：鑑賞シート 思：鑑賞シート 態：行動観察
2 表現の発想と構想（1時間） ② 前時の鑑賞を生かしながらマッピングをし、主題を生み出し、色の性格を考え配色を考える。 ③ 表現したい主題に必要な文字やイラストなどのパーツを考え、エスキースする。 ④ 主題を基に、形を単純化させながら下書きをする。	◎	○	○	知：アイデアマップ① （マッピング） 思：アイデアマップ② （エスキース） 態：行動観察、アイデアマップ （気付きメモ①）
3 形の鑑賞と練り直し（1時間） ⑤ 制作の視点を基に形のスケッチを鑑賞し、自分の意図を説明したりアドバイスしたりすることにより、表したいものをより一層明確にする。	◎		○	知：アイデアマップ③ （アイデアスケッチ） 態：行動観察
4 色彩の効果 ⑥ 色がもつ性格と、与える印象について学ぶ。 ⑦ 表したいアイコンの主題に応じて色の効果を生かし、配色する。	◎		○	知：イメージスケールプリント 思：単純化ワークシート 態：行動観察、気付きメモ②
本 時 5 色の鑑賞と練り直し（1時間） ⑧ 制作の視点を基にアイデアマップ③を鑑賞し、自分の意図を説明したりアドバイスしたりすることにより、表したいものをより一層明確にする。 ⑨ アイデアスケッチを練り直す。	○	◎	○	知：アイデアマップ③ （レイアウト練り直し） 思：アイデアマップ （対話活動シート） 態：行動観察、気付きメモ③

6 制作（2時間）				知：作品 思：作品 態：行動観察
⑩ 表したいイメージに応じて道具や材料を選び、豊かに発想し表現する。	○	◎	○	
⑪ 制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。	◎		○	
⑫ 主題を明確に、全体のバランスを考えて仕上げる。	◎	○	○	
7 鑑賞（1時間）				思：鑑賞シート，作品 態：行動観察
⑬ お互いの作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを説明し合い、見方や感じ方を深める。		◎	○	
<授業外，題材が終了後>	◎	◎		知：アイデアマップ，作品 思：アイデアマップ，作品

5 題材の評価

（1）題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 色や形が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、伝えたい内容を全体のイメージで捉えることを理解している。 - 材料の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら見通しを持って表している。	- 伝える内容やイメージを基に主題を生み出し、分かりやすさと形や色彩などとの調和を考え、表現する構想を練っている。 - 伝えたい内容と分かりやすさの調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、表現の意図と工夫を考え、見方や感じ方を広げている。	- 印象に残るアイコンをデザインする中で、目的や機能を考えて構想を練ったり、意図に応じて工夫したりして見通しをもって表現の活動に取り組もうとしている。 - 調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の表現の意図と工夫などを考え、見方や感じ方を広げる鑑賞の活動に取り組もうとしている。

（2）題材の評価

思考・判断・表現

A	アイコンの目的や条件などを基に主題を生み出し、主題を伝達するために文字やイラストの効果と美しさなどの総合的な調和を考え、表現の構想を練っている。
B	アイコンの目的や条件などを基に主題を生み出し、文字やイラストの効果と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。
C	B 未満

6 本時の実際（４／７）

(1) 題 材...アイデアスケッチの練り直しを行う

(2) 目 標

- ① 主題を元に、色に関する既習事項の知識を生かして創造的に表現することができる。

【知識及び技能:技能】

- ② 自他の作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫、アイコンとしての美しさなどを自分の価値意識をもって味わうことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- ③ 主題を基にして、制作の視点を考えながら構想を練っている。

【思考力、判断力、表現力等】

- ④ アイコンに関心を持ち、目的意識をもって主体的に表現、鑑賞の活動を行うことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

(3) 授業設計の工夫

本題材の2時間目に、マッピングを基に主題を生み出し、主題に応じて用いる色について考える授業を行った。既習事項である色相環や色の性格などの効果を視点にすることで、伝えたい対象のイメージを色に置き換え、分かりやすさと美しさなど調和、統一感を総合的に考えて構成する力の育成を目指した。その授業の終盤において、下記の基準のもと評価を行った。

A	自ら設定した主題に基づき、既習事項を生かしながら配色を美的に構成している。
B	自ら設定した主題に基づき、配色を美的に構成している。
C	B 未満

その結果、32%の生徒が「A」、44%の生徒が「B」、24%の生徒が「C」であった。これを基準に照らすと、「ケース2」となる。

ケース2	多くの生徒がB基準以上であるが、AよりBが多い場合	次時以降の授業において、B評価の生徒をA評価に高めることをねらいとして手立てを講じる。
------	---------------------------	---

生徒は既習事項により、ひとつの色に意味をもたせて表現する方法を概ね理解しているものの、表したいモチーフそのものの色を選んだり、複数の色の組み合わせで主題に迫ったりするには至っていなかった。よって本時では、鑑賞の段階で得た作品を振り返りながら、対話的活動を通じて主題に迫らせたい。配色を考える際の手立てとして、既習事項である色相環や色の性格、またカラーイメージスケールなどを取り入れる。対話的活動では、他者からの意見を参考にしながら練り直しに向けて構想を深めさせ、自他の思いも含めてアイデアマップに記述させたい。その後にロイロノートの描画機能を用い、配色を変更する部分を中心に描画させることにより、前後の変更を見取りやすくする。アイデアマップ③の描画と併せて、気付きメモ④や対話的活動から、思考力、判断力、表現力等を身に付けるために、粘り強く取り組もうとする試行錯誤を見取りたい。

(4) 展開

過程	主な学習活動（・予想される生徒の姿）	時間/形態	○ 指導上の留意点 ◎は評価
導入	1 本時の学習課題を設定する。	3分 一斉	・ アイデアマップを使って前時までの学習過程を振り返り、本時の学習活動の意図を捉えさせる。
	主題に迫るには、どのような配色にすればよいのだろう。 自分のアイデアスケッチをよりよくするためにはどうすればよいだろうか？そのための改善点を知りたい。	2分 一斉	<制作の視点> インパクト，わかりやすさ，好感
展開	3 対話的活動を通じて互いのアイデアスケッチを鑑賞し合う。	18分 グループ	◎主 意欲的に対話的活動に参加している。 ◎発 アイデアスケッチ③を見取り，うまくできていない生徒に対し，鑑賞資料等を基に改めて考えさせるなどの手立てを講じる。 【アイデアマップ】 既習事項と，鑑賞して得た考えをまとめながら話し合いをさせる。
	4 対話的活動を通じて感じたことや制作に生かしたいことを，制作の視点を基に気づきメモ④に書き，写真を撮る。	3分 個人	・ 対話的活動を通じて得た改善点から完成までのイメージを持たせる。
	5 改善点を確認し，タブレット上で練り直し，提出する。	15分 個人	・ 変更点がない場合もよりよい表現に向けて練り直しができるよう助言を行う。 ◎発 形や色彩の効果や，分かりやすさと美しさなどとの調和，統一感を考えられているかを見取る。 【アイデアスケッチ④】 タブレットでの描画機能を用いることで，変更点を明確にさせる。
	6 代表者がアイデアスケッチ④を発表する。	5分 全体	・ 机間指導でアイデアマップの③から④がよりよく変化した生徒を数名選び，代表で発表させる。 ICT 機器を用いながら鑑賞し，作品に込めた想いに迫らせる。

ま と め	7 新しい発見や気づき，次時に向けた取組 などを気づきメモ④に記入する。 8 次時の説明を聞く。	4分 一斉	・ アイデアマップ全体を振り返り，自分の 作品の深まりを自覚できるようにする
-------------	--	----------	---

(5) 本時の評価の基準

【思考・判断・表現】

A	自他の作品を鑑賞し，作者の意図や表現の工夫，アイコンとしての美しさなどを自分の価値意識をもって味わい，表現の意図や創造的な工夫などを考え，見方を深めている。
B	自他の作品を鑑賞し，作者の意図や表現の工夫，アイコンとしての美しさなどを自分の価値意識をもって味わうことができる。
C	B 未満

【思考・判断・表現】

A	鑑賞および対話的活動を通じて深めた見方を基に，制作の視点を捉えながらアイコンのアイデアスケッチをよりよく練り直している。
B	鑑賞および対話的活動を通じて深めた見方を基に，アイコンのアイデアスケッチを練り直している。
C	B 未満